

<b>事業所名</b>	グループホームびっちゅう (クリックすると事業者の情報にリンクします)
<b>日付</b>	平成19年 3月30日
<b>評価機関名</b>	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
<b>評価調査員</b>	A:現職 生活指導員 資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、0-AHLB-2級、介護支援専門員 B:現職 デイサービスセンター管理者 資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター、音楽療法士
<b>自主評価結果を見る</b>	(事業者の自主評価結果にリンクします)
<b>評価項目の内容を見る</b>	(評価項目にリンクします)
<b>事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)</b>	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か(記述)</p> <p>入居者本人の生活歴・特徴を把握し、個人の能力・意欲を引き出してその人らしさをありのままに受け入れ、個人の主体性を大切にするケアに取り組んでいる。</p> <p>ホームを「第二の我が家」とし、共に生きる喜び、生きる意欲を高め、入居者に寄り添い一緒に歩むケアを実現するために努力している。</p> <p>入居者の社会参加と地域とのふれあいを積極的に進め、レクリエーション、催し物への参加など地域住民との交流の中で地域に開かれた明るいホームを目指している。</p> <p>認知症の進行を緩和し、安定した生活を維持して穏やかで喜びの味あえるホーム生活が出来るよう、積極的に生活リハビリに取り組んでいる。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>共用空間は室温が調整されており、採光も充分で、いつでもどこでも快適に過ごせる。畳コーナーには炬燵があり、集団の中でも自分の居場所が見つげ出せ、一人でのんびりと自由に過ごせるように工夫している。</p> <p>長い廊下と南面のウッドデッキは、長く広くゆったりとしている。テラスを囲むフェンスは腰の高さで安全に仕立てあり、雨の日でも自由に散歩ができ、入居者の精神的安定に繋がるようにしている。</p> <p>「第二の我が家」を目標に、普通の家庭生活の実現を理念とし、個人の自主性を大切にありのままを見守り、落ち着いたホーム生活が出来るように努力している。</p> <p>職員は、常にゆったりと落ち着いて行動し、パタパタとして入居者に不安や過剰な精神的刺激を与えないように心がけている。</p> <p>ホームは山間地にあり、ワラビ・ふきのとう・セリや山野草の宝庫でもある。地域にとけ込み、地域の自然環境が充分に生かされる支援の実現を目指している。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

### 外部評価の結果

<b>講評</b>
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
<p>広島県との境、小高い丘の上であり、周囲の山間地にとけ込み、のんびりとした自然を肌で感じられる環境でありながら、買い物・行事参加等外出を頻繁に行い、ホーム生活にメリハリをもたしている。</p> <p>ホームは地域活性化のため町が設立し、現在は高齢者福祉事業に長い経験を持つ医療法人が管理・運営を行っている。当医療法人は精神科の医師を中心に、認知症高齢者の介護に対して専門的なノウハウを持って取り組み、入居者・家族は安心して介護を受けることが出来る。</p> <p>ホームは町営住宅(現在は合併により市営住宅)と同一敷地内にあり、隣には集会所が設置され、地域福祉の拠点となっている。入居者は地元の方が多く、地域からの信頼も厚く、地元の皆さんと密接した協力・支援体制がある。</p> <p>入居者一人ひとりに、毎日、健康記録表を作り、「生活リハビリ」の項目を設け、各個人の毎日のリハビリ内容・量などを記録し、身体機能維持にしっかりと取り組んでいる。</p> <p>入居者の表情は明るく、職員は寄り添いながら個々に対応したケアを行っている。また、自主評価を職員一人ひとりが行い、常に振り返ってケアに生かすようにしている。</p> <p>食堂には床暖房を施し、オール電化により台所も電磁加熱器を設置している。火災防止には特段の留意を払い、入居者は調理・配膳等に安心して参加して携わることが出来る。</p>
特に改善の余地があると思われる点(記述)
<p>記録に関しては管理者の苦心が見られるが、記録の内容・表記に今一歩踏み込んだ具体性を具備されることを期待する。他の職員が家早く正確に状況を把握できるよう、今一度諸記録を整備し直してみてもどうか。</p> <p>ホームの置かれている自然環境や地域状況はあるが、職員の習熟度に応じて段階的に職員の学びを支援されることを期待する。研修の年間計画を立て、外部研修の機会を積極的に増やし、法人のネットワークを活用して介護資質の向上に重点を置くことを提案したいと思う。</p>

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)</p> <p>入居者の今までの生活歴・経験・能力をよく把握し、活用できるように配慮している。グループの中で自分の役割を持って、存在感が認められるように支援し、本人が自信を持ってホーム生活が出来るように取り組んでいる。</p> <p>入居者本人の自由意志を尊重し、個々の趣味を生かしたレクリエーション等を取り入れ、ホーム生活の活性化を図っている。また、入居者の自己決定を支援し、本人の自信回復や情緒を豊かにする雰囲気作りを心がけている。</p> <p>外出・外泊時には居室を施錠し、外部のボランティアによる大掃除等の場合にも居室は外し、入居者個人のプライバシーを守るように取り組んでいる。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)</p> <p>火災等緊急時の対応については、地域の皆さんと共同して対応出来るように日頃から準備している。防災避難訓練を積極的に実施し、加えて夜間の避難訓練も地元の人の協力のもとに行い、入居者の安全確保について日頃より地域と一体となって努力している。</p> <p>事故報告書には些細な事故も記録し、因果関係や今後の対応策などを考慮して再発防止に向けて職員全員で取り組んでいる。</p> <p>管理者は職員と共に、サービスの質の向上に向けて地域の社会資源を生かせるように研究し、入居者が安心して生き生きと活性化して暮らせる「第二の我が家」作りを目指している。</p>		